

# 入賞作品紹介

⑰

## 中学生の部親子賞 入選

### 新聞って深い

会津若松市 北会津中1年 佐藤 愛菜さん

私の家では、父、母、祖父母、姉の五人が毎日のように新聞を読んでいきます。母が、読んでおもしろかった記事を抜き出してくれます。その記事を私ともう一人の姉が読む、というのが、我が家の「新聞」です。

母が抜き出してくれる記事は、事件や事故の記事ではなく、有名人へのインタビューの記事や、投書の記事などがほとんどです。私は、今まで新聞とは、福島県や日本、

世界での出来事を知るだけのものだと思っていました。だから、新聞なんて読まなくてもテレビのニュースを見るだけで充分、と思っていました。しかし、母が新聞の記事を抜き出してくれるようになって、それを読んでいくうちに、新聞は、出来事を知るだけのものじゃない、ということに気がつきました。もちろんテレビのニュースでやっているような出来事も記事になっていきます。でも、

新聞には、その出来事に對しての意見も載っているのです。しかも、その意見は、偉い人や有名な人だけでなく、私たちのような、一般の意見もあるのです。同じような立場の人の意見を読むと、その出来事が、身近な出来事のように感じます。

そして、その出来事について深く考えることができます。

新聞は、テレビのニュースと違って出来事についての考えを深めることができます。これからは、新聞を読んでたくさんそのことを知り、考えを深めていきたいと思えます。

### セレクト記事

母 佐藤 陽子さん

このコンクールのため、娘が書いた作文を読んで嬉しくなりました。何故なら、私を感じている新聞の良さを、娘も同じように気づいていること

とが分かったからです。数年前は新聞に全く興味を示さなかった娘。勤めても「えー、読むとこ無いじゃん」と一蹴されました。でも、どうして

も読んで欲しい記事が毎日のように目に入ってきます。やはり読まないのは勿体無いので、まず、娘が興味を持ちそうな記事をセレクトして、その頁を抜き取り食卓に置くようにしました。手頃なサイズになるため朝食時に読むようになり、これが毎朝の日課になりました。

新聞の記事を読むようになったことで満足していましたが、娘は新聞の深さにまで気づいてくれていました。目を通すだけでなく、そこから考え、感じ取ってくれていたのかと思うと、より嬉しさが増えました。

私が、まともに新聞を読むようになったのは、恥ずかしながら社会人になってから。こんな私より、十数年以上も早く新聞と付き合えるようになった娘。これには、学校で新聞に関する教育の環境を整えてくれたいる効果も大きいと感じます。

新聞離れが進んだことで、新聞に関する教育が強化され、娘にとっては良いタイミングで新聞と出会うことができました。

今は、私がセレクトした記事を読んでいますが、娘目線でセレクトした記事が食卓に上がるのは、そう遠くない日のように感じます。その時の記事がどのような内容になるのか、今から楽しみです。

読む 知る 学ぶ E! 新聞